

★ 尚学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/honjuku/>

1月 

令和5年1月10日

横浜市立本宿小学校

『寅さん』の名言に学ぶ

校長 松比良 聡夫



『「おじさん、大学に行くのは何のためだ」。受験勉強中の満男が、ふと寅さんに尋ねる。その答えがいい。「長い間生きてりゃあ、いろんなことにぶつかるだろ。そんなとき、勉強したやつは自分の頭できちんと筋道を立てて、どうしたらいいか考えることができる」

「男はつらいよ」シリーズの第40作、「寅次郎サラダ記念日」に、こんな名言があった。よい会社に入るためとか、すぐに得られる技能を身に付けるためとか、寅さんは決して言わないのである。学問というものの意味を説いて、すっと胸に落ちる言葉ではないか。一人ひとりが地道に築いた知が積み重なり、社会も強くなるー。」(日本経済新聞 12月30日春秋より)

年末から新年にかけて、北日本では記録的な大雪に見舞われました。米国でも豪雪、インドは寒波など、温暖化の影響と思われる気候変動が地球規模で起こっています。関連して、この50年間に多くの動植物が絶滅し、生物多様性の喪失がものすごいスピードで進行しているそうです。ミツバチ、ウナギ、マグロの減少などは身近にも聞く話題です。自然環境を育み、資源を生み出してくれる動植物が失われると、私たちが生きられなくなってしまいます。地球が人類を包容しきれなくなる限界に向かう、『後戻りのきかない転換点』が目前に迫っていると言われています。

人類を含む生物がずっと生きていける地球を守っていくためにも、大人である私たちが持続可能な社会になるよう、修正・改善をしていかねばなりません。同時に、子どもたちに、持続可能な社会の創り手として、寅さんの言う「自分の頭できちんと筋道を立てて、どうしたらいいか考える」力を育てることが大切だと思います。

本校の6年生は、一つのテーマを深く学び続けることと、様々な人から学ぶことにより、自分で深く考えること、多様な考えを学ぶことを目指しています。1組「いごちのよい学校づくり」、2組「フェアトレード」、3組「脱プラスチックプロジェクト」、それぞれのテーマに向かって様々な外部講師にも来ていただき、1年間を通して自分たちにできることを模索し続けています。地域や企業、団体、クラスの友達等の様々な人の考えに触れ、見方や考え方を広げ、深めています。『みんな違ってみんないい』を大切にしつつも、集団としての目標を定め、他者と折り合いをつけて協働して取り組むことで、大きな成果を出せることも学んでいます。



令和5年も『本物宿せ！本宿小』の学校教育目標のもと、持続可能な社会の創り手を育む教育に励んで参ります。本年もよろしくお願い申し上げます。